

令和4年11月2日

飯舘村体験博覧会 「こちら5合目、応答せよ！—までいな山の登りかた」の開催

震災から11年、継続して飯舘村の復興支援活動に携わってきた行政政策学類大黒ゼミは、今年度、新企画に乗り出します。

新たな企画は、「飯舘村体験博覧会【こちら5合目、応答せよ！—までいな山の登りかた】」。飯舘村の日常生活を直接体験し、参加することで飯舘の復興を支えることができる12のワークショップを集めた、「体験博覧会」です。

行政政策学類の学生たちは、本プロジェクトの企画に協力しただけではなく、村民や村への移住者とともに、村の復興を支える一人として、ワークショップの提供者となっています。

福島大学生が、飯舘村の魅力を多くの人たちに伝えることができるのか—私たちのチャレンジが続いています。

大学生が行う復興支援活動は、被災された方々が主体的に進める活動をサポートすることです。福島大学行政政策学類大黒ゼミは、発災後、飯舘村のその時々で必要とされるサポート活動が続けてきました。仮設住宅でのイベント実施から、村のNPO法人の村民訪問みまもり活動のサポート、村民の「自分史」の聞き取りと冊子化事業など、すでに多くの実績があります。

今年度から始める大黒ゼミの新たなプロジェクトは、これまでの実績を基礎にしつつ、大学生が果たしてきた「サポーター」という役割、を一步超えようとするものです。「サポーター」から飯舘村の「復興の担い手」へ——学生たちは新たな段階へと進もうとしています。

飯舘村体験博覧会「こちら5合目、応答せよ！—までいな山の登りかた」は、(1)飯舘村民、(2)飯舘村への移住者、(3)飯舘村での活動に携わる大学生の3者が、それぞれ、飯舘村を舞台にしたワークショップをシリーズで提供するものです。この体験博覧会で私たちは、村の日常を体験し、村の生活をより楽しくするための12のワークショップを用意しています。

学生たちが提供するワークショップは多彩です。

- ・孫ちゃんに負けないゲームの腕を磨こう！（プログラム⑧）

離れていても携帯電話で孫ちゃんとゲーム対戦できる腕を磨くための「ゲー

ムワークショップ」

- ・大学生と一緒に—飯館 de ダンス！！（プログラム①）
村をダンサーで埋め尽くすための第一歩となる「ダンスワークショップ」
- ・エネルギーって僕たちでもつくれるんだ—楽しくエネルギーを体感しよう（プログラム⑩）
飯館の野菜を食って山に登る自分の体も再生可能エネルギーを製造しているんだよという「再エネワークショップ」
- ・飯館村の新しいお土産づくり—台湾キッチン TAROTARO のパイナップルケーキ（プログラム②）
台湾土産をこっそり飯館で製造する「パイナップルケーキづくりワークショップ」

また、村の荳胡麻づくり団体が提供者となる新たな「荳胡麻ドレッシング」の商品化を目指すワークショップにも学生（食農学類生）が協力します。

※そのほかのプログラムとしては、以下のものがあります。詳しくは別紙パンフレットをご覧ください！

- 飯館の冬の寒さを利用した「凍み餅づくり」（村民提供）
- 古着を利用したエコバック制作（村民提供）
- 飯館の自然を芸術に変えるスワッグづくり（移住者提供）
- 飯館村で「国際」を感じるラテアート教室（移住者提供）、他

「こちら 5 合目、応答せよ！」。本プロジェクトのタイトルは、ある村民の方の震災直後 2011 年 4 月の本学での講演会での言葉に由来しています。

—村づくりは、8 合目、9 合目まで来ていたんだ。放射能汚染や避難があったって、これまで積み重ねてきたものはゼロにはなりはしない。5 合目からの再出発だ。

福島大学の学生たちも、村にかかわる一人として、飯館復興の山に登りはじめます。

なお、本事業は、一般財団法人飯館までい文化事業団と福島大学行政政策学類大黒ゼミが共同で企画しています。

あわせて、昨年 12 月から始めた「いいたて村の村民食堂」も、本年 10 月から定例開催となっていることを申し添えます。

（お問い合わせ先）

行政政策学類・准教授 大黒 太郎

電話：024-548-8026

メール：a027@ipc.fukushima-u.ac.jp

飯舘村体験博覧会

vol.1

ここから
応合せよ！
はじめてのEYEのEYEがた

KOCHIRA
GO-GOME,
OUTOUSEYO!



特設 Webサイト公開! ~村を楽しむ12のプログラム~

2022 **11.23 wed** → 2023 **3.4 sat**

2022年11月1日(火)13:00より受付開始(事前申し込み制)

主催 一般財団法人飯舘までい文化事業団
共同企画 福島大学行政政策学類 大黒ゼミ

「こちらら 5合目、 応答せよー」

「までいな山の登りかた」

山間の高原に広がる美しい村、飯館。

時に厳しい高地の自然と向き合い、村民

同士が支え合うことを当たり前に、人々は

「までい」な暮らしを育み、自らの目指す

村づくりに励んできました。

そんな村を東日本大震災が襲ったのは11年前のこ

と。原発事故の影響で、これまで紡いできた暮らしを

置き去りに、全村避難を余儀なくされました。

それでも、それまでの暮らしやまでいな村づく

りへの想いがゼロになったわけではありません。

全村避難が始まろうとしていたそのとき、ある村民

の方がこう話していました。

《「こちらら5合目、応答せよー」までいな山の登りかた参加規約》

1 事前予約

参加には、事前の予約が必要です。

○ご予約後、主催者からご予約確定のご連絡をいたします。2、3日経っても予約確定の連絡がない場合は各ワークシヨップの問い合わせまでご連絡ください。

○応募締切日前に定員に達したプログラムについては、応募を締め切らせていただきます。

2 自己責任

○運営事務局は、各プログラムにおける怪我や病気、事故などについて一切の責任を負いません。

3 プログラム主催者の指示など

○プログラム主催者及びこちら5合目、応答せよーまでいな山の登りかた運営事務局の指示・注意事項に従ってください。

4 料金及び参加規約

○料金は大人も子どもも全て一律の料金です。

5 プログラムの中止及びコースの変更

○当日の天候や感染症の蔓延状況等により、内容を変更する場合があります。

6 服装、持ち物

○各プログラムに適した服装でお越しください。

7 飲食

○食材アレルギーがある方は、予約時及び当日に、スタッフにお申し出ください。

8 キャンセル

○やむを得ずキャンセルする場合は、必ず前日までに各プログラム主催者へご連絡ください。

○小学生以下の方は必ず保護者同伴でご参加ください。

○当日の天候や感染症の蔓延状況等により、内容を変更する場合があります。

※プログラムを中止するときは、主催者より参加者に連絡します。

※万が一に備えて、健康保険証のコピーをご用意ください。

※食材アレルギーがある方は、予約時及び当日に、スタッフにお申し出ください。

○やむを得ずキャンセルする場合は、必ず前日までに各プログラム主催者へご連絡ください。

本プロジェクトを実現するにあたり、「奥会津体験博覧会『せと森の宴』」を参考にさせていただき、スタッフの方々の協力を得ました。心より感謝申し上げます。

「奥会津体験博覧会『せと森の宴』」公式WEBサイト

▼ <https://okuzin.info>

——「村づくりは8合目、9合目まで来ていたんだ。放射能汚染や避難があったって、これまで積み重ねてきたものはゼロになりはしない。5合目からの再出発だ」

これまでの村づくりの理念、それを支えた人々、村の伝統や手業。

村が決して失わなかったものから始め、復興の高みに向けて歩み続ける人たちがいます。みなさんにも、私たちと一緒に「までい」な山に登ってほしい。

村民、移住者、村に関わる大学生。

それぞれが考える「飯館村の暮らし」を体験できるプログラムを用意しました。

復興までの山の登り方はひとそれぞれ。村の人もそうでない人も。若い人も、人生を積み重ねた人も。ゆっくりしたり、寄り道したり。丁寧に、時にはかっこよく。

「こちら5合目、応答せよ!」——やまびこの声にこたえながら、楽しく山を登ってください。

一般財団法人 飯館までい文化事業団

もくじ

参加の手引き・感染症対策について……4

プログラム……5

① 大学生と一緒に―飯館deダンス!!……5

② 飯館村の新しいお土産づくり―台湾キッチン TAROTARO のパイナップルケーキ……6

③ 飯館村オリジナルの―荏胡麻ドレッシングをつくらう!……6

④ 飯館の自然を芸術に―クリスマスとお正月のためのスワッグづくり……7

⑤ 飯館村の寒さを活かした伝統の保存食―凍み餅をつくらう……7

⑥ 飯館で海外気分―ラテアート教室……8

⑦ 村のお母さんたちとまでいにちくちく―古い着物をリメイクトートバックづくり……8

⑧ 孫ちゃんに負けない―ゲームの腕を磨こう!……9

⑨ お花あふれる工房で―ポタニカルキャンドルづくり……9

⑩ エネルギーって僕たちでもつくれるんだ―楽しくエネルギーを体感しよう!……10

⑪ 蒸留体験&アロマワークシヨップ……10

⑫ チャレンジプログラム!

プログラムカレンダー・集合場所MAP……11

